

1 学校評価の目的

学校評価は、幼児児童生徒がよりよい学校生活を送れるよう、学校経営の改善と発展をめざす取組です。

四日市市では、次の3つを目的とした学校評価を実施し、保護者や地域住民等から信頼される学校づくりを進めます。

(1) PDCAサイクルの継続により、学校経営の改善を図ります。

各学校が、学校づくりビジョンを策定し、「めざす子どもの姿・めざす学校の姿」の実現に向け設定した重点目標について、その達成状況を把握・整理し、取組の適切さを検証することにより、組織的・継続的に改善していきます。

(2) 説明責任を果たすとともに、開かれた学校づくりを進めます。

各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者や地域住民等から理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めます。

(3) 学校への支援・条件整備を充実し、教育の質の保障・向上を図ります。

学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることであり、一定水準の教育の質を保障し、その向上を図ります。

2 学校評価を実施する際の基本的な考え方

学校評価を実施する際は、次の3つの基本的な考え方について教職員全体で共通認識し、学校全体で取り組むようにすることが大切です。

(1) よりよい学校づくりにつながるものであること。

学校評価が「評価のための評価」にならないよう、学校運営の改善や教育活動の充実につながる取組にすることが大切です。

(2) 目に見える学校改善につながるものであること。

学校評価を定着させるためには、教職員一人一人が「学校評価をやってよかった」という実感を得ることが大切です。例えば、子どもの変容から実感を得られやすい授業改善の取組を学校評価の中心に据えて取り組むなどの工夫が必要です。

(3) 分かりやすく、使いやすいものであること。

学校づくりビジョンに示された「めざす子どもの姿・めざす学校の姿」や重点目標、評価項目・指標等は、教職員全体で共通認識を図りやすく、保護者や地域住民等にも評価しやすい具体的なものとなるよう工夫することが大切です。

やってよかったと思える学校評価にするために（その1）

- 教職員自身が「評価したい」、「評価されたい」と思うことについて取組を始めましょう。
- 学校が「力を注いできたこと」、「当面している具体的な問題」に絞って評価項目を設定し、評価活動に継続的に取り組むことができるようにしましょう。
- 学校評価は、年度末や学期末に実施するだけでなく、内容によってはその時点で評価を行う方がよい場合もあります。その場合は、評価結果をファイルしておきましょう。速やかに改善を図る必要があるものには、ただちに改善活動にとりかかりましょう。